

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

2014年度

知的・発達障害児と社会を結ぶ事業の報告書

特定非営利活動法人両育わーど

2015.3

背景・目的

求人課題

児童福祉施設では、収入の90%が助成金である。その他収入を得る手立ては寄付ぐらいに限られており、外部との交流ができず、人集めにも苦労しているという声も多い。報酬単価が固定されているため職員の昇給も難しく、人材の定着も困難な状況にある。また福祉学科の学生は、資格取得時期の兼ね合いから就職活動期間が短く、希望する職場を見つける時間がなく、適切なマッチングが行えていない。同時に福祉施設側の情報発信も不足している。

施設の課題

現行の福祉制度(児童福祉法に基づく放課後等デイサービス)では、報酬単価が向上した一方、制度上ニーズに基づく追加の独自サービスの提供による対価を得ることができない。無償提供では人件費的に個別対応ができない。あわせて待機児童の問題もある。

社会とのつながりの課題

福祉現場と地域住民や民間企業との交流には改善の余地があるが、制度上外部と関わる機会が少ない。

実施内容

1. ボランティア募集のためのパンフレット・ステッカー作成

福祉現場でのボランティアに参加したくなるような魅力的なパンフレットとステッカーを作成し配布した。パンフレットは後述するWebサイトに訪れてもらうための工夫をした。

2. ボランティア体験記事の充実化

障害福祉の理解が向上するようなボランティア体験記事の掲載を開始し、適切なカテゴリ分類(ボランティアイベントのジャンル別から関わる人の属性別へと変更)を行った。

3. Webサイト更新・運用、福祉施設とボランティアの調整

施設紹介・求人情報の記事を追加。寄付ページに、複数の視点からの参加者の声を掲載し、支援のしやすさも改善した。また認知のために、団体代表者のブログを制作し、ソーシャルメディアの運用を行った。また定常的なWebサイト運用として、ボランティア希望者と福祉施設のマッチングを行いコーディネートをした。

実施報告

1. パンフレット・ステッカー

パンフレット ページ構成

サイズ A5 サイズ変形

綴じ 蛇腹折り

ページ数 8P

構成 右図の通り

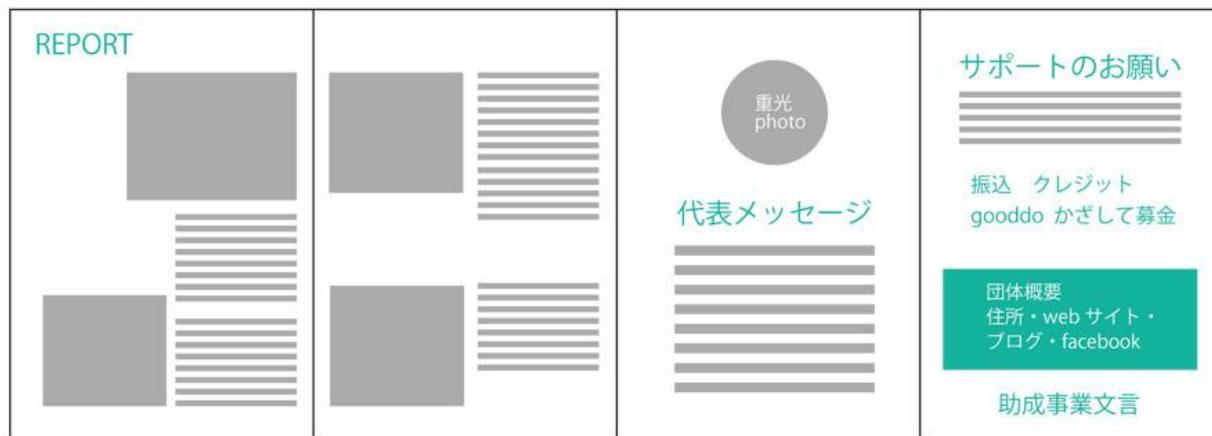


1

2

3

4



5

6

7

8

パンフレット 表表紙



パンフレット 2～3ページ



ビジョン

知的・発達障害児と関わる人が
ともに学び合う、
「両育」のある社会へ。



りょういく とは

「療育（りょういく）」という言葉をご存知でしょうか。知的・発達障害児が、医療的な配慮のもと学ぶことにより成長し、社会的に自立することを目指して行われる後押しや支援を表す言葉です。一方、私たちが現場での関わりから実感した造語である「両育（りょういく）」という言葉は、子供だけが成長するのではなく、関わる人も、真剣に子供と向き合い、試行錯誤することで結果として学び、成長できるという概念を表す言葉です。障害福祉や社会貢献には、垣根の高い印象があるかもしれませんが、より多くの方に少しでも関心をもっていただきたいと考えます。私たち両育わーもど「りょういく」サイトが、知的・発達障害児とみなさまが出会う場として貢献できることを願っています。

ryoiku.org

パンフレット 裏表紙

参加する

「りょういく」が紹介するイベント*で知的・発達障害児と触れ合うことは、今まで気づかなかった新しい視点や感情と出会うきっかけになるでしょう。言葉以外のコミュニケーションがあること。無意識のうちにもっていた価値観があること。一方的にサポートするのではなく、子供と真剣に向き合うことでお互いに学び、成長できる。それに気づく頃には、以前よりずっと自由な自分になっているでしょう。

障害の有無を越えて、多様な人々が触れ合うイベントへの参加を心からお待ちしています。

*イベントにはボランティアとしての参加となり、内容は紹介先の福祉施設に準じます。

「りょういく」サイトのイベントページ：<http://ryoiku.org/events/>

イベント参加までの流れ



イベント参加者の声

“ これまで、障害者と接する時は、「手を貸してあげる」という上から目線だった自分に気づかされました。イベント中はあっという間に時間が過ぎてしまったので、また参加したいです。
(24歳/女性)

“ 今まで障害者と接した事がなかったので、どこかで恐怖感をもっていました。きちんと向き合うことで、人と人として行動をともにする事ができました。イベントに参加した施設の療育方針である「過度に甘やかさない」ことは、今後の子育ての教訓になりました。
(34歳/男性)

“ 長年営業畑で仕事を続けてきました。子供たちとのボランティアを通して、初めて建前のいらぬ心地よさを覚え、また機会をつくって参加したいです。
(大手企業営業職40代/男性)

パンフレット 7~8ページ



最終的には障害の有無を越え、
人々がともに学び合える社会を
実現していきたい

特定非営利活動法人両育わーど
理事長 重光 喬之

私たち両育わーどは、知的・発達障害児及び育成者や彼らに関わる人が、ともに学び合える社会の実現に向けて活動しています。
私自身、十数年間、知的・発達障害児者へのボランティアを通して、彼らの生きる喜びや成長を見届けてきました。その彼らとの関わりから人生観に大きな影響を受け、“人も自分も嫌い”から“人も自分も好き”へと変化しました。同時に、実はボランティアをしていた私の方が、彼らから学ばされていたことに気づきました。この変化や気づきを「お互いに育つ」で「両育」と呼ぶことにしました。両育わーどは活動を通して、社会へ「両育」による学びを伝え、子供たちの将来へ向けた自立の育成支援をサポートをしていきます。最終的には障害の有無を越え、人々がともに学び合える社会を実現していきたいと考えています。

知的・発達障害児とボランティアの交流を通じて、 豊かな社会を目指します

私たち両育わーどは、調布市内にある放課後等デイサービスを提供する福祉施設を中心に次の事業を行っています。

1. 交流事業

「りょういく」サイトの運用を通して、これまで障害福祉に縁のなかった方に興味・関心をもていただくための情報と機会を提供しています。これにより、知的・発達障害児者と福祉施設職員、地域住民・学生・企業といった、さまざまな属性をもつ人々の間に交流が生まれます。その中でお互いの存在を認め、それぞれが生き生きと過ごすことによって、より豊かな社会へ進んでいくことを目指しています。

2. 事業支援

福祉施設が直面する問題をサポートすることで、求人採用や人材育成の改善提案や代行といった慣性的な人手不足を解決するための支援、さらに許認可申請や施設建設といった法改正に伴う業務、その他にも資金調達や新規事業立上げ、事業計画の策定などを通して施設をサポートし、ひいては子供たちへの間接的な支援を行っています。

3. アドボカシー事業

精神・身体・知的、成人・児童、介護などさまざまな分野が存在する福祉において、児童福祉施設の声はなかなか行政へ届きづらい状況にあります。そこで、知的・発達障害児への福祉現場の声を聞き、子供たちの育成環境向上のために、地方自治体や厚生労働省などへ働きかけるお手伝いをしています。



ご支援の
お願い

年々増加する知的・発達障害児に対して、育成（療育）の機会が足りません。
「両育」のある社会へ力をください

療育とは、知的・発達障害児の自立に向けた後押し・支援をする取り組みのことです。この療育サービスを提供する子供たちのための放課後施設（児童福祉法下の放課後等デイサービス提供施設）が、さまざまな要因により危機的状況にあります。私たち両育わーどは、これらの問題解決の糸口を探るため、「両育」をキーワードに支援を行っています。人々がお互いを認め、ともに学び、育ち合える社会の実現に向けて、ご支援をお願いいたします。

さまざまな支援方法をお選びいただけます

<p>銀行 から</p>	<p>振込先口座 特定非営利活動法人両育わーど ▶ 三菱東京 UFJ 銀行 渋谷支店 135 普通 口座番号 0712658 ▶ ゆうちょ銀行 店名〇一八 店番 018 普通 口座番号 3553143</p>
<p>クレジットカード から</p>	<p>クレジットカードで支援ができます。継続的な支援と一回のみの支援が選べます。 クレジットカードからの寄付ページ： http://gooddo.jp/gd/group/ryoiku/</p>
<p>WEB から gooddo</p>	<p>gooddo (グッドドゥ) は誰でも、今すぐ、簡単に無料で支援することができるソーシャルグッドプラットフォーム。毎日のクリックや「いいね」などのアクションが活動支援金となります。 「りょういく」サイト内リンク参照または「gooddo ryoiku」で検索</p>
<p>スマホ から がざして募金</p>	<p>かざして募金^{※1} スマホから専用アプリを起動して、ロゴ画像に「かざす」だけ。簡単な操作で支援できます。^{※2}</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="1159 1056 1313 1142"> <p>1. まずはアプリをダウンロード iOSは AppStore, Androidは Google Play でお がざして募金 で検索</p> </div> <div data-bbox="1333 1056 1506 1142"> <p>2. アプリを起動し、ロゴ画像に スマホをかざして画面をタップ</p> </div> <div data-bbox="1526 1056 1680 1142"> <p>3. 寄付金額を選択 金額を選択し、寄付ボタンを タップ</p> </div> </div> <p><small>※1 かざして募金では領収書の発行ができません。ご了承ください。 ※2 ソフトバンクをご利用の方は携帯電話料と合わせてお支払いができます。ソフトバンク以外の場合はクレジットカードでのお支払いとなります。</small></p>



特定非営利活動法人両育わーど
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 3-20-16 第5階ビル5F co-ba shibuya 内

<http://ryoiku.org/>

当パンフレット及び平成26年度「りょういく」サイトの運営は、独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業の「発達障害児及び育成者と社会を結ぶ事業」として助成をいただいております。

ステッカー



ステッカー(デザイン案)

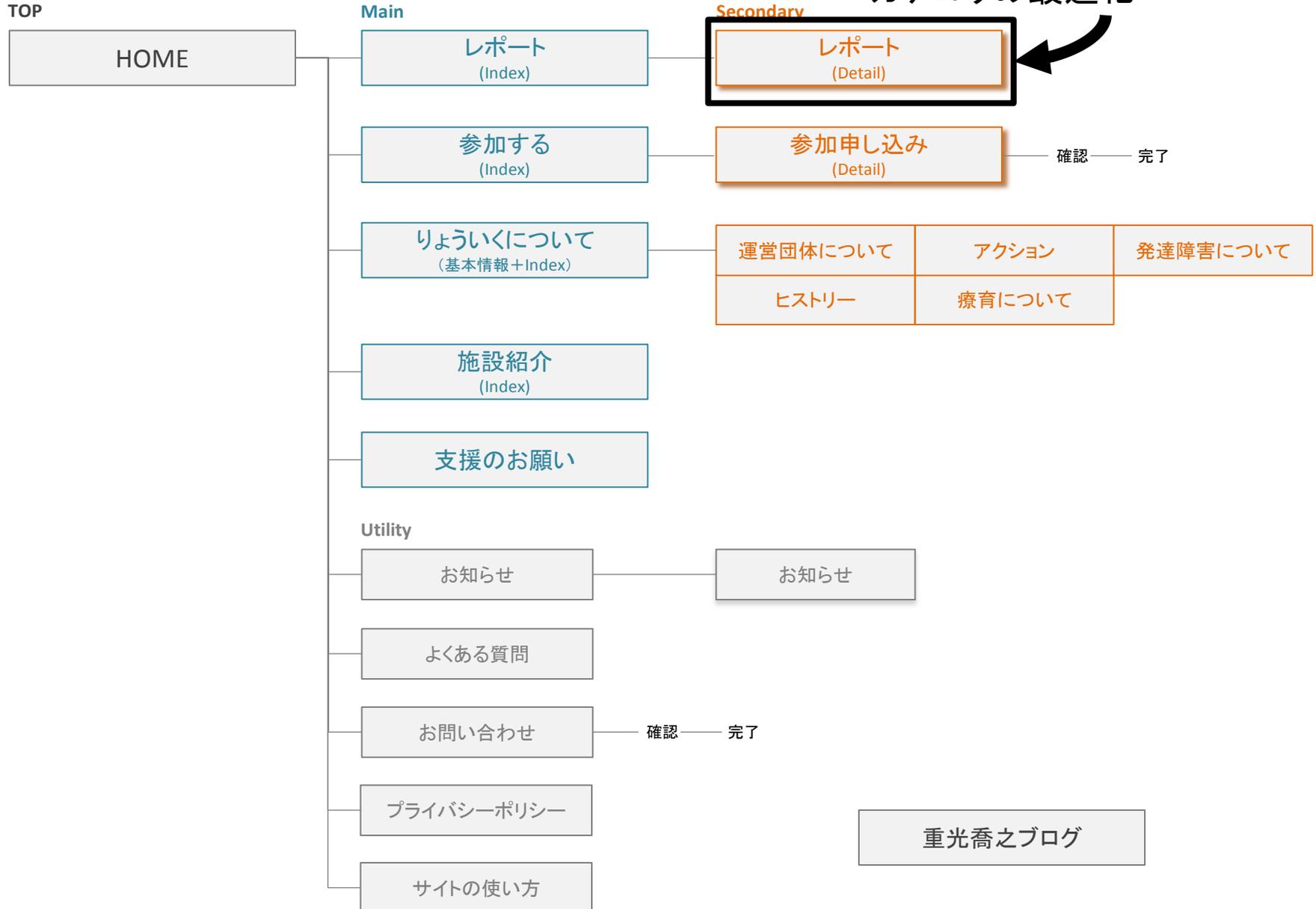


実施報告

2. ボランティア体験記事

Webサイトの改修箇所

ボランティア体験記事の拡充 カテゴリの最適化



記事2 ボランティア活動という体験は宝物。ここは自分を育ててくれた大切な場所



ホーム

- りょういくについて
- レポート
- 参加する
- 療育施設とともに
- ご支援のお願い
- お問い合わせ

カテゴリ

- ボランティアの奥
- 地域の声
- 教育現場の声
- 施設紹介/本人
- 行政/専門家の声
- レポート一覧

最近のレポート

- 「自然療育カンファレンス NIPPON 2014」参加報告 2日目
- 「自然療育カンファレンス NIPPON 2014」参加報告 1日目
- 障害者に関わらず、誰もが困難を乗り越えたい。人らしくしての誇りを持つ。一療育ボランティアは、ライフワーク
- 子供たちの成長のため、時には難しくなることもある実践者になりたい

レポート一覧

行政/専門家の声 2014.06.09

ボランティア活動という体験は宝物 ここは自分を育ててくれた大切な場所

医療関係に就事されている山下さん（仮名）。臨床心理士の資格をもち、普段から知的障害や重症障害を持った方と接しています。大学生のころに「ふみ月の会」に参加し、社会人になってから久しぶりにボランティア活動の現場に戻ってきました。学生時代からボランティアをされている山下さんに、近況や過去の体験について伺いました。

山下さんは医療関係のお仕事をされていると聞きます。現場でも障害者の方と接する機会が多いようですが、職場でボランティアの経験が役立つことはありますか？

以前は、スタッフの方から担当する子の課題を聞いて、そこばかりフォーカスしていました。参加するプログラムがあれば「それをこなさなければならぬ」と自分が集っていたんです。いまは担当する子の「いろんな面が愛たい」と思っています。「今日一緒にいる子はどんな子かな？」とワクワクしながら現場に行き、担当の子に会ったらその子のいいところを探します。社会人になってから視野が広がったのは、学生時代の経験が生きているからかもしれません。意識はしていませんでしたが、仕事を始めてからその違いがわかりました。



具体的にはどんなことがあったのでしょうか？

たとえば料理をするプログラムがあったら、活動内容は料理をすることです。ですが、本当の目的は料理をすることではありません。料理はあくまでも手段で、料理を通じてなにかを体験してあげたいんです。社会人になる前にボランティアを通して、手段と目的は違うと学びましたが、それを紙で実感できました。

普段も医療系の仕事をして、ボランティアにも参加すると大変じゃないですか？

自分でも疲れるかな？ と思ったのですが、そんなことはありませんでした。逆に学生時代の方が無理をして参加していたと思います。自分が無理をしていると、子どもにもしわ寄せがいくというか、うまく関係性を築けないことがありました。それで「うまくいかなかった」で終わってしまう。その後「ふみ月の会」のスタッフさんから處に衣替えないご意見をいただいて（笑）、それを持ち帰って反省していました。悪いことを言われたこともありましたが、だからと言ってボランティアを辞めようと思ったことはありませんでした。

スタッフの方からはどんなアドバイスがあったのでしょうか？

思っていることや、自分の感情をストレートにぶつけていい、ということですね。でも自分自身がなにを思っているのか、気づけなくて、アドバイスをいただいても、どうしたらいいのかわかりませんでした。ストレートに表現する＝怒る、ということなのか……いま振り返る立場は感情を持っていませんでした。人の感情がわからなくなってしまったら、悪しくなることがありました。悪しくなったときに、「あ、いま私は悪い」と気づけて、それは自分の中で大きなきっかけでした。私は福祉施設のスタッフや子ども達との関わりを通して人間にしてみたら思っているんです。

ボランティア活動では、学校で勉強する以上の学びがあったのでしょうか？

本を読んでいて、「ふみ月の会」での経験やスタッフの方が知っていた言葉とリンクすることがあります。ボランティアを履いていて何度もハッとさせられることがありました。大学の勉強だけでは得られなかったことが学べましたね。誰でかかっていたのかもありませんが、ボランティア活動を通して考えのやりかたも、悪しくならなければいいや、嫌しかったら笑おうと思えるようになって。それが私の感情のなかって。欲っ切れてからはスタッフの方がおっしゃっていることもなんとなく「こういうことか近いのかな」と自分なりに咀嚼できるようになってきました。

ピンチのときは、子どもの方がちゃんとする

今までとまどったり、困ったことはありました。

今までとまどったり、困ったことはありました。たくさんあります。みんながハイキングに行ったときに、自分の担当の子がゆっくりに歩いて、列から遅れてしまうことがありました。スタッフの方たちと黙って二人っきりになるのが怖かったですね。なにかあったら大変ですし、早く歩いてほしいと思います。でも、それって自分が安心したかっただけなんですよね。その子にとって、列を思はずに行くことは重要ではないんです。遅くても、遅くても自力でゴールへたどり着くことが大事なんです。しかも、そういうときに誰も助けてくれないんですよね（笑）。遅く遅くしてはいいんですけど、海外子どもは平気だったりします。一緒に遊子になった女の子はともお辞儀な対応で、交差へ道を譲って行ってくれました。イレギュラーなことがあっても大丈夫で、こちらがピンチだと察して子どもの方が「ちゃんとしなせや」と動くんですよね。施設スタッフは、そこまで信頼して、放任しているんですけど、こちらはそれどころじゃありませんでした（笑）。

一緒に遊子になるのは不安ですね。マニュアルはあるのでしょうか？

ありません。なのでその分、こちらが本気にならざるを得ないです。どうしたらいいの、全力で考えます。遊子になったときも相手の子に「私たちは遊子になった課戻って帰りますよう！」と一生懸命説明しました。

山下さんは5年間、ボランティア活動を経験してきたと聞きます。お話を伺っていると、大変なことも多く感じますが、なぜ長期、続けるのでしょうか？

ボランティアに行ったら楽しく終わってしまったら、続かなかったと思います。障害を持った子たちと接しているのに嫌になかったり、わからないことがたくさん出てきます。毎回、自分にとって課題というか、克服したいものが出てくるんです。わからないことがいっぱいあって、スタッフの方に聞いてもわからないことを言われて……その「わからないさ」を理解したかったんです。それで続けていたのかも知れませんが、いまでもわかりませんが、でもまた行きたいと思います。

それはなにかを乗り越えに毎回行っているということなんでしょうか？

うーん……答えは出ないと思っています。もっと「わからないこと」に気がつきたいんです。こんなわからないことが世の中にいっぱいあるんだ、と。一瞬わかたような気がしても、スタッフの方と話すとなんか全然違うんです。「こうだったか」とか「もしかしらたらどうかな」とちょっとだけ投げかけられるんですけど、考えさせられることは多々ありますね。ボランティアでの経験は、私にとって宝物です。社会人になってからその体験や、スタッフさんたちからの言葉が活用すると、それが聞きたくてまたボランティアに参加しました。宝物をまたちょっと覗いて元気をもらうような感じですかね。

2014/5/17
Text：西牧道ふみ
独立行政法人福祉医療機構 福祉社会福祉援助事業

いいね！ 31 ツイート 0

おススメイベント

仕事 認知症福祉まつへの参加 2014年12月6日 ふみ月の会	仕事 認知症講座参加発表 2014年8月22-23日 ふみ月の会	活動 海外出張作り 2014年7月12日 ふみ月の会	仕事 チームリーダー 2014年6月28日 ふみ月の会
--	---	-------------------------------------	--------------------------------------

記事10「自閉症カンファレンス NIPPON 2014」参加報告 2日目

りょういく
RYOUIKU TEACHERS

ホーム
りょういくについて
レポート
参加する
教育施設とともに
ご支援のお願い
お問い合わせ

カテゴリー
ボランティアの声
地域の声
教育現場の声
施設の方へ
行政/専門家の声
レポート一覧

最新のレポート
「自閉症カンファレンス NIPPON 2014」参加報告 2日目
「自閉症カンファレンス NIPPON 2014」参加報告 1日目
障害に問わず、誰もが困難を乗り越えよう。人と人としての誇りを持つ。一療育ボランティアは、ライフワーカー
子供たちの将来のため、誰にも負けないで頑張る。発達障害者支援者になりたい
レポート一覧

両耳わーど Facebook

NPO法人 両耳わーど 代表理事 菅野 美穂 さんのブログ
「両耳」のある社会へ力をください

ご支援のお願い

「自閉症カンファレンス NIPPON 2014」参加報告 2日目

「自閉症カンファレンス NIPPON 2014」参加報告2日目

自閉症カンファレンスの2日目です。午前中は「わが子にとってのTEACCHプログラム」と題して、ASDの子供さんを持つ三人の保護者の方々の生の声を聞きました。ここでは専門家や研究者の意見を聞いてきたので、ASDのまさに現場にいる人たちの声を聴けるという意味で楽しめました。

現在小学、中2、そして地域のケーキ屋さんで働く24歳の青年の三人のケース。今回はTEACCHという教育方法を採用している方が多かったのですが、それぞれその手法に出会うまでの悩み、葛藤感、苦闘について話していました。そして、保護者としての期待をこめて「こうなってほしい」という保護者側がしたい支援ではなく、自閉症スペクトラム(ASD)を持つ子供たちが必要としている支援は何かを考えることの大切さが強調されていたように思います。

ASDと診断されたのが4月だったので、地域の療育施設ではすでに年度として制度上受け入れられないので、翌年まで待たされたといったケースもあったとのこと。診断されても現実的なサポートもいまま試行錯誤で子供さんと関わったというご苦労も聞かれました。

保護者側からみて、ASDの人たちの支援に携わる方々に何を期待するか?それは、もちろん具体的なスキルのみならず、「ASDはこういうもの」と決めつけるのではなく、柔軟にかかわりを持つ力。そして、何より相手を「困った人」としてではなく、ひとりの「人」としてかかわり、純粋にその人が楽しめたいためにどうしたらいいかをトコトン考え実行することのできる力。といったことがあげられました。



2日目の午後は「青年期と成人の自立に向けて - 家庭や地域でできること」と題して、ノースカロライナ大学TEACCHセラピストのキャシー・ハーシー氏の講演。ASDの子供たちが成長した後、自立した生活を送るためにできること、準備すること、支援者がしなければならないことについての話でした。

学校や家庭とは違う環境に出て行く中で、社会性を身につけるのは保護者も同じ。でも、その社会性が求められる場面で様々なハードルをすでに自分の中に抱えているのがASDの子供たち。TEACCHのプログラムでは、教室や家の中で「模倣化」と呼ばれる手法を使い、ASDの特性を活かした道具の置き方や課題への取り組み方を習得していきます。でも、一歩外の環境に出て、それまで練習したことのない人「かかわりを持つ」ことはたくさんのチャレンジがあります。そして、楽しさを覚える可能性も秘めているし、また自立に向けてのステップにもつながります。

それだけに、その為の準備をどれだけ段階よく、「戦略的」にできるかということが重要なようです。準備して失敗しても、それを評価して次の計画につなげて実施を継続する。地道な歩みであるにしても、それを経てはASDの子供たちの自立はないのだと思いました。

このカンファレンスの最後に参加したセッションは、TEACCHのディレクターであるゲリー・メジボフ氏による「TEACCHプログラムのコアバリュー2014」。

どの組織した企業も、ミッション、ビジョンと同時に「コアバリュー」、大切にしたい価値基準といったものを掲げています。ASDの子供たちの支援も40年近く関わってきたメジボフ氏は、そのための価値観を大切に、「いかに子どもと関わり、その中で、子どもが何をしたいのか、

は、あえてその技術的なことではなく、「人とのかわりと自立」を目指して日々積みながらASDと向き合う本人とその家族、周りの支援者、教育関係者すべての「動機付け」の運動力となるバリューについて90分語り続けたのが印象的でした。

「自閉症を理解すること」「常に最高の目標を設定すること」「必要なことを実施すること」「協力と協働」「正直であること」「状況を肯定的にみる」となど、まだまだ他にもたくさんコアバリューがあげられましたが、どれもこれも「人」として生き、働く」上で大切な価値観が反映されているのがわかり、当たり前とさえ思えば当たり前のことというリストではあっても、これを常にメジボフ氏がリーダーとして「更新し続ける」ことに情熱を持っていることが伝わってきました。理念を決めてただそれを唱えるだけではなく、日々成長し学び続ける謙虚さ、といったものがにじみ出ていました。

ということで、すべてのセッション終了後にメジボフ氏に直接挨拶に行きました。本場に気づいて謙虚なおじさんという感じ。この人だからこそ、ASDに関わる多くの人にとって良いとなるようなTEACCHというプログラムの開発を続けてこられたのだと感じました。



今回のカンファレンスだけではなく、ASDに関わる人にとっての大きなテーマは、そもそも社会性やコミュニケーションといった意「困難を抱えるASDの子供たちが、どう他人と「かかわり」を持ち続けたい行けるか、ということでしょう。

でも、これってASDがあるなしにかかわらず、「人として」、大事なことじゃないでしょうか。もう一度カンファレンスのレジュメなどを読み返すと、確かにASDの特性を反映した教材や、教室の取組についてなど、かなり特殊なものもありますが、それもある意味で障害と言われている子供たちにも有効なものじゃないかというものもたくさんあります。この頃ってあるんだらうか?まだ自分にもよくわかりませんが、福祉専門の人間でもないで、これを見られた皆さんのご意見も伺いたいです。

いざいざよ、この「障害者ある人vs 障害者」という対話をしたりきたりしながら、「両耳わーど」は成長していくのかな、とふと思ったわけです。

14/8/24 自閉症カンファレンス2014
text by 森田 両耳わーど 記事
独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

いいね! 1 | ツイート 0

関連するレポート

「自閉症カンファレンス NIPPON 2014」参加報告 1日目

おすすめイベント

<p>14/8/24</p> <p>2014年8月24日 土曜日の夜</p>	<p>14/8/23</p> <p>2014年8月23日 金曜日の夜</p>	<p>14/7/12</p> <p>2014年7月12日 土曜日の夜</p>	<p>14/8/23</p> <p>2014年8月23日 土曜日の夜</p>
--	--	--	--

りょういくについて
代表紹介
運営活動概要
施設紹介
ヒストリー

レポート
参加する
連絡先情報
よくある質問
お知らせ

ご支援のお願い
サポート
よくある質問
お知らせ

記事12 ボランティアで学んだことを社会の中で生かしたい。Vol.1



- ホーム
- りょういくについて
- レポート
- 参加する
- 教育施設とともに
- ご支援のお願い
- お問い合わせ

- カテゴリ
- ボランティアの声
- 川崎の声
- 教育施設の声
- 施設紹介/人
- 行事/イベントの声
- レポート一覧

レポート > ボランティアで学んだことを社会の中で生かしたい。Vol.1

行方不明 2016.03.15

ボランティアで学んだことを社会の中で生かしたい。Vol.1

<対談>埼玉大学教育学部教授 河端先生（左）と「育育わーど」代表 岡育わーど理事長 高木先生（右）が対談した。河端先生は、教育施設「ふみ月の会」の運営に15年以上参加されています。今回の対談では、「育育わーど」の目指す未来について語り合いました。

岡育が生れたきっかけ

高木（以下、高）：まずは私が「育育わーど」をはじめたきっかけについてお話をさせていただきます。「育育」という言葉は、私たちが考えた言葉です。知的・運動障害をもつ子供たちと交流する人たちは、難れ合うことと受けたい学びがあるんじゃないかと感じたことから、両方が育つという願いの名前をつけました。私は10歳の時にじめて教育施設のボランティアをしたのですが、小学校6年生のフアン館の女の子の担当になり、本当に良かったです。言葉は通じないし、すぐに泣かれてしまっって、当時の私は勝手に、他人のことも自分のことも好きではありませんでしたね。

河端先生（以下、河）：意外ですね。そこからスタートしているんですね。



高木（以下、高）：「福祉」や「ボランティア」という言葉も、当時は何となく使っていたんですけど、これが、難れ易い言葉で子供に受け合っているのを目の当たりにして、「こんな言葉で人と交わる場合は、ほかにはない」と感じました。それがボランティアを続けることになった最初の動機でした。

河端先生（以下、河）：高木先生は、子供に何を教える責任が問われるからやめて、という気持ちがあったりしますよね。でも、それでは子供たちには伝わらないんです。そういう経験を得るまでね、「あ、これは自分のためにやっている言葉だね」と気がついたんです。それから、勝手に親で親で良かった。目と目を合わせて話した。小さな声で「聞いてよ」とときどきやってみたり、伝え方を工夫するようになったり。その結果、コミュニケーションの楽しさや喜びも学びました。そして、子供たちが話せる言葉が伸びたり、教育施設での生活が楽しくなったり、親との距離が近づいていきました。

高木（以下、高）：最初は知的・発達障害をもつ子供たちのためにやっているつもりだったのですが、実際は障害がなくても成長させてもらっているんですよ。他人に自分も嫌いだと思わなかったのは、彼らのおかげなんです。他にもそう思う人が増えたら社会はもっと良くなるし、子供たちの育成環境の向上にもつながると思います。「りょういく」サイトは、ボランティアさんの体験談を掲載しています。中高生の児童（パートン、社会人、大学生、インターン生など、いろんな方の経験で感じたことを伝えています。

岡育を企業の社員研修で

河端先生（以下、河）：おもしろいですね。でも、どうしてレポートという形にしたのでしょうか。

高木（以下、高）：実は美しが運営委員会で発行している表を決定してきてくれたので、最初は会社が必要だと思ったんです。そこで教育施設でボランティアを企業社員研修に活用したいと考えました。教育施設でボランティア体験は、社内コミュニケーションにも効果があると思えました。まずは社員でテストをしたのですが、効果が気づいたという問題が解決できました。

河端先生（以下、河）：企業の経営者層に今の話を理解してもらえば、やってみようというところもそうなんです。私は経営者層に、子供たちと関わるコミュニケーションを教えるという目的を伝えるための研修会を開いています。以前、企業企画部研修を担当したことがありました。IT企業の人材研修だったのですが、参加社員は多くは、ユーザーとつながる世代後半の会社社員とのコミュニケーションに悩んでいました。年齢もそれにならなれていない、会社も存在でもある企業に、自分も関わることやまじく伝えられないそうなんです。そこでワークショップという、自分も研修も大切にするコミュニケーションを学んでいただくことにしました。小グループをつかって、お互いに何かを教えるたりするところをやってみて、フィードバックを行いました。その企業では今もこの研修を続けているんですね、教育施設でのボランティアも研修としてアプローチできる可能性があると思います。

高木（以下、高）：それができたらすごいんですけど、福祉施設には特別な雰囲気があるのって、いろんな人が来るだけでも難関になると感じます。

河端先生（以下、河）：「研修に行きなさい」と誰かに言われて来た方は驚いたんですけどね。「なぜか」とも言われてるんだから、という気持ちも伝わってくるんです。でも、そんなふうに理解する人も目と目を交わしているんです、あきらめずに受け入れてあげてほしいと思います。

最近のレポート

ボランティアで学んだことを社会の中で生かしたい。Vol.1

「発達障害カレッジ」NPO法人「発達障害」の活動

「発達障害カレッジ」NPO法人「発達障害」の活動

障がい者も、誰もが活躍できる社会を。障がい者の誇りを育てる。一

育育わーど Facebook

障がい者も、誰もが活躍できる社会を。障がい者の誇りを育てる。一

「両利き」のある社会へ力をください



ご支援のお願い

高木（以下、高）：「育育わーど」が目指していることは、なかなか伝わりにくい気がしています。そこで、「りょういく」サイトのレポートを通じて、少しずつ伝えたいと考えています。こうして発信している場も増えてほしいと、企業との連携も進んでいます。

岡育と学校教育



河端先生（以下、河）：学校の先生の研修としてはどうですか。発達障害児の受け入れが学校から進んで生活する。発達障害児は発達障害児の子供たちが学ぶ分業室があるんです。特別支援学校の分業室ですね。そこを学んだり、運動会を見てももらったことがあるのですが、先生が子供たちとものすごく良い関わりをしているんです。子供を愛した子供たちの保護者も大人を愛して関わっているのを感じて、先生が子供たちとものすごく良い関わりをしてくれているんです。

高木（以下、高）：具体的にどんなふうに関わっているのですか。

河端先生（以下、河）：子供を受け入れられる学校の中には、保護者のいない中、大人の不信感の中で試行錯誤が多いんです。その分業室も最初は手探りでした。少しづつ教育の力を貸して子供たちを指導してきました。そこでは発達障害児の集団生活のノウハウ、運動会での指導も子供たちを指導しては、一人ひとりのやることにチャレンジして、うまくできないところもあるけれど、それを認めていく、それを運動会を通して、練習を重ねていって、練習も増えて、人と接したいとできないんじゃないですか。それまでたくさん練習の場があった方が、生活に慣れていってほしいと思います。そういう場も学校にたくさんあるといいですね。

高木（以下、高）：その報告の先生は、どんなことに苦労されているのでしょうか。

河端先生（以下、河）：いろいろな問題があります。ひとつは発達障害児の受け入れによる保護者の不信感で、対応が難しくなっています。その結果、保護者の不信感が増えることが、ここではじめて特別支援学校の先生になりました。最初はどうしていいかわからなかったのですが、今ではじめてこそ教育の場だと感じているんじゃないでしょうか。

高木（以下、高）：私が手伝っている教育施設「ふみ月の会」の代表さん、障害児の親戚は教育の場だとおっしゃっていましたが、どうしてそう感じるのでしょうか。

河端先生（以下、河）：やはり、一人ひとりを大事にしているんじゃないでしょうか。子供を愛している子供は、教育を受けていない期間があったりします。いろんな学校の子どもは、子供たちと学ぶ機会も大きいので、一度授業がほしいんです。そこで、授業時間も一人ひとりに合わせた授業を行ってほしいです。そういう授業をいってほしいという声もたくさんあります。

高木（以下、高）：そういう子供たちと関わったことなかった先生が、研修期間の中で、なかなか学びが深まる、というところでしょうか。

河端先生（以下、河）：そうですね。うまくいっている人との交流があるのがいいですね。先生がゲストとして来られてしまわぬよう、何かとかがりをつけてやっていこうという気持ちもあれば、おまじい感じだと思います。

高木（以下、高）：福祉現場も似たような感じですね。自然発生的にはまだ受け入れが難しいので、自分の研修に間に合うという機材があります。僕がおっぱいと一緒に一人で遊びますが、「ふみ月の会」ではそういう子供さんと一緒に遊んでいるんです。

河端先生（以下、河）：「ふみ月の会」では心と心の交流を促すって、積極的に遊びに来るようになる方がいいかなって感じます。でも、とても素晴らしい取り組みだと感じています。

Text by 河端先生
独立行政法人福祉政策推進 社会福祉院川崎施設長

「りょういく」 | ログイン | サインアップ

読者のレポート

ボランティアで学んだことを社会の中で生かしたい。Vol.1

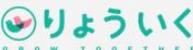
おすすめイベント

- 2016年11月10日 10:00 - 11:00 発達障害カレッジの活動
- 2016年11月22日 10:00 - 11:00 発達障害カレッジの活動
- 2016年11月22日 10:00 - 11:00 発達障害カレッジの活動
- 2016年11月22日 10:00 - 11:00 発達障害カレッジの活動



- りょういくについて
- 活動の
- ご支援のお願い
- お問い合わせ
- お問い合わせ
- お問い合わせ
- お問い合わせ

カテゴリの最適化



🏠 ホーム

- 👁️ りょういくについて
- 📄 レポート
- 👤 参加する
- 🏢 療育施設とともに
- 🙋 ご支援のお願い
- 📞 お問い合わせ

🏠 > レポート

レポート

行政/専門家の声



ボランティアで学んだことを社会の中で生かしたい。 Vol.2

今年は私が担当している子が宿泊券を手作りしてくれたのですが、会費をこんなにも楽しみにしてく...

行政/専門家の声



異業種からの福祉だから、見える世界があった

もしも時間ができて、障害について考えるようになったきっかけがあるのならチャレンジしてみては...

行政/専門家の声



「自閉症カンファレンス NIPPON 2014」参加報告 2日目

2014年8月23日から24日まで、早稲田大学で開催されている「自閉症カンファレンス NI...

ボランティアの声



療育ボランティアは、ライフワーク

彼ら、彼女らと付き合うことによって、自分も表現豊かになった気がします。もともとおしゃべり上...

カテゴリ分類

行政/専門家の声



ボランティアで学んだことを社会の中で生かしたい。 Vol.1

<対談> 埼玉大学教育学部教授 沢崎俊之 (さきまさき・としゆき) 先生×再育わーど理事長 重光...

行政/専門家の声



「自閉症カンファレンス NIPPON 2014」参加報告 1日目

自閉症カンファレンスの2日目です。午前中は「わが子にとってのTEACCHプログラム」と題し...

施設紹介/求人



障害に聞かわず、誰もが困難を乗り越えた後、人間としての誇りを持てる。

時には大変なことも、難しいこともある。でも、いろんなことを知りたり、乗り越えて進んでいくこと...

ボランティアの声



子供たちの将来のため、時には寂しく叱ることのできる支援者になりたい

子供を泣かせてしまった……落ち込んだけれど、大切なことが見えてきました...

最近のレポート

ボランティアで学んだことを社会の中で生かしたい。 Vol.2...

ボランティアで学んだことを社会の中で生かしたい。 Vol.1...

異業種からの福祉だから、見える世界があった...

「自閉症カンファレンス NIPPON 2014」参加報告 2日目...

「自閉症カンファレンス NIPPON 2014」参加報告 1日目...

> レポート一覧

再育わーど facebook

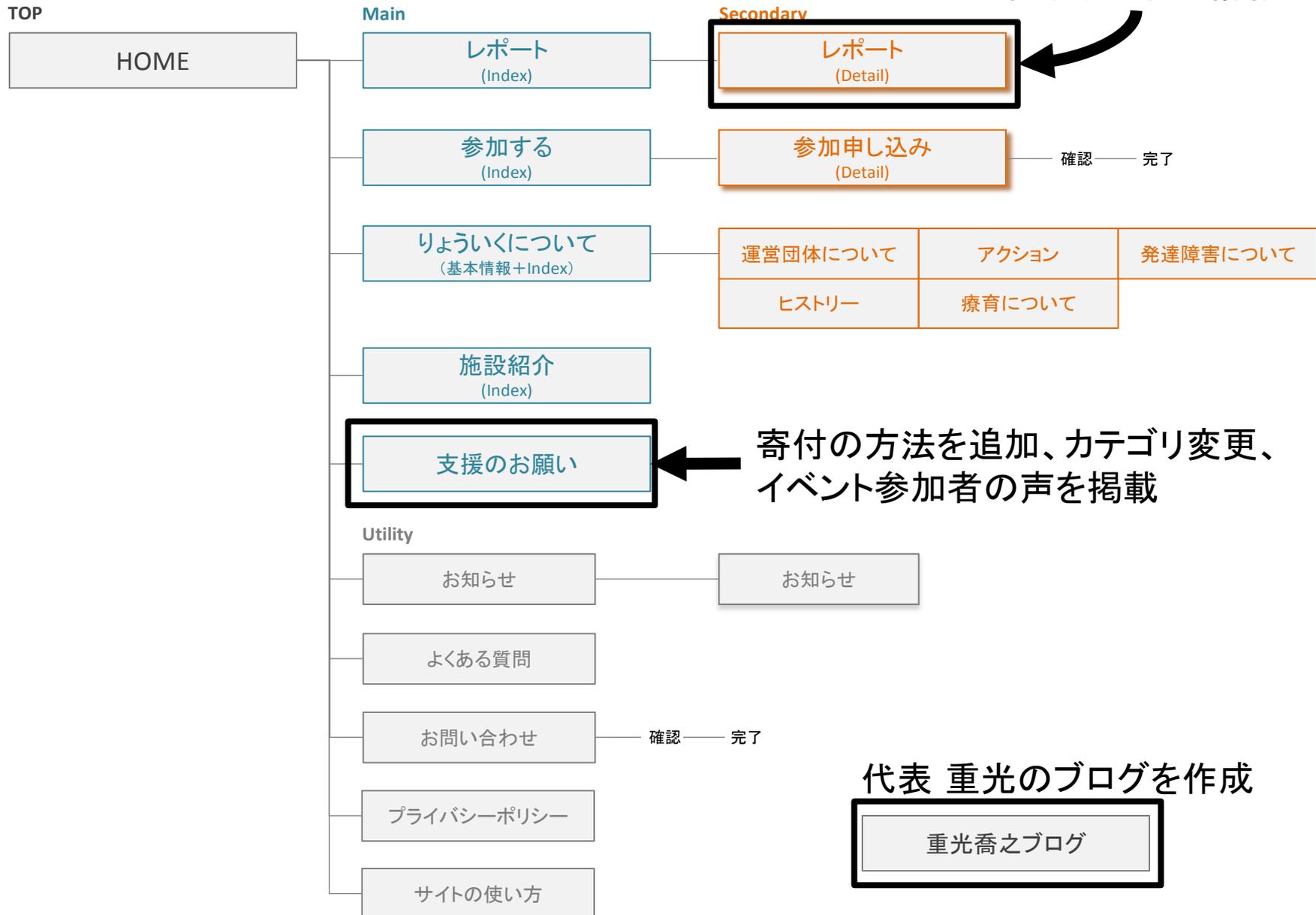
NPO法人再育わーど代表 重光 善之のブログ

「再育」のある社会へ力をください

28

3. Webサイト更新・運用、福祉施設とボランティアの調整

Webサイトの改修箇所



ご支援のお願い

誘導文言の変更



障害があっても、障害がなくても、誰もが自分らしく生きられる社会を実現します。

障害とは、障害者の社会的な地位、権利、生活を支える取り組みのことです。障害があっても自分らしく生きられるよう、社会的な生活環境の整備から始まり、社会生活を共にし、共に生きるためのことばなるべく必要であるよう目指しています。

いま、この障害者を行う福祉施設が、様々な理由によって閉鎖的になっています。わたしたち「再育わーど」は、これらの閉鎖的施設の改善を促すため、さまざまな方法で支援を行っています。

すべての人が障害の有無や年齢、性別といった属性に関らず、お互いを認め合い、喜び、育ち合う社会を目指して、「再育わーど」は、一歩一歩進んでいます。わたしたちの使命に賛同いただける方も、ぜひご支援をよろしくお願いいたします。



年々増加する発達障害に對して、育成（療育）の機会が足りません。

東京都では、約13万人の児童のうち、発達障害児は10万人にも上ります。日本全国でもその数は年々増加しており、大学進学や就職活動のタイミングによってより多く育つケースも多く、社会問題となっています。ご支援を行う施設は、優秀な人材不足、および運営資金不足、さらには法改正などの様々な理由で、閉鎖的になってしまっている施設も少なくありません。こういった状況で育つ児童の中には、さまざまな理由で発達障害児として十分な機会を得ることができず、わたしたちも「再育わーど」は、障害児とボランティアが相互に支えあえる場をつくることを目指しています。

障害児とボランティアの交流を通じて、豊かな社会を目指します。

私たちは、皆さまからのご支援を、下記の事業・支援に活用させていただきます。

- 1. 交流事業**
「りょういく」サイトの活用を通して、これまで情報発信に偏っていた施設と施設・個人を中心とするための情報と機会を提供します。これによって、障害児や社会福祉施設職員・学生・企業・福祉住民といった、さまざまな関係者もつなぐ交流が生まれます。交流の中でお互いの存在を認め、それぞれがいきいきと過ごすことにより、より豊かな社会へ一歩ずつ近づいていきます。
- 2. 施設支援**
施設が提供する環境をサポートすることで、子ども達の発達環境の向上を目指します。また、業務・人材育成等における施設側からの、育児経験者に対する研修などの実施、さらに、法改正に伴う研修、例として、制度移行対応、助成金申請、施設運営の刷新支援が生まれます。交流の中でお互いの存在を認め、それぞれがいきいきと過ごすことにより、より豊かな社会へ一歩ずつ近づいていきます。

- 3. アドボカシー事業**
精神・身体・知的、成人・児童とある福祉で発達障害児のほかに中高生や障がい者生活者にもあります。そこで、私たち再育わーどは、商業施設関係者の声を聞き、子ども達の発達環境向上のために、施設関係者や事業者側からご協力いただけるお声かけをしています。

支援手段の追加

ご支援の方法
お申し込みの受付に際してはご指定された、どこかご支援を希望いたします。ご支援にはさまざまな方法をご用意しておりますので、以下のいずれかの方法をご選択ください。

〇オンライン決済による継続的なご支援
月ご一定、クレジットカード決済、自動引き落とし、自動振込などがあります。
*毎月お申し込み、クレジットカード決済、クレジットカード決済の振替手数料がかかるため、クレジットカード決済は必ずしも必要ではありません。お申し込みの際、クレジットカードの振込先が送付されるメールに必ずお申し込みください。お申し込み後、お申し込みの旨をお知らせいたします。
*ご支援の受付は必ずご指定の口座へお申し込みください。*ご支援の受付は、お申し込みの旨をお知らせいたします。お申し込みの旨をお知らせいたします。

ご寄付の金額をお選びください。
 3,000円 5,000円 10,000円

支援する

クレジットカード決済は自動決済サービスを利用しています。
クレジットカードのご利用について

〇オンライン決済による一回限りのご支援
ご寄付の金額をご入力ください。お振替額は10,000円まで、何回でも可能です。

円

支援する

クレジットカード決済は自動決済サービスを利用しています。
クレジットカードのご利用について

〇銀行振込でのご支援
以下のどちらかの銀行口座に、お振込み願います。
お振替額は10,000円まで、何回でも可能です。

株式会社「再育わーど」 普通 口座番号0712955
株式会社再育わーど 普通 口座番号0712955

ゆうちょ銀行 普通口座 口座番号018
株式会社再育わーど 普通 口座番号018

※振込先は必ずお振込み先、お振込み先は必ずお振込み先と一致するようにしてください。

〇「かきして療育」によるご支援

かきして療育

スマートフォンを利用し、100円からご寄付ができます。ソフトバンクのスマフォアプリをご利用の方は、100円からご寄付いただけます。お振込み先は、お振込み先は必ずお振込み先と一致するようにしてください。お振込み先は必ずお振込み先と一致するようにしてください。お振込み先は必ずお振込み先と一致するようにしてください。

スマートフォンを利用し、100円からご寄付ができます。ソフトバンクのスマフォアプリをご利用の方は、100円からご寄付いただけます。お振込み先は、お振込み先は必ずお振込み先と一致するようにしてください。お振込み先は必ずお振込み先と一致するようにしてください。お振込み先は必ずお振込み先と一致するようにしてください。

詳しい内容は、ソフトバンクのホームページでご確認ください。

ソフトバンク **ソフトバンク**
スマートフォンからのご寄付 **スマートフォンからのご寄付**

〇「gooddo (グッドド)」によるご支援

gooddo

gooddo (グッドド) はクラウドファンディング、ご支援いただけるサービスです。サポート企業との連携によって、支援・支援の機会を広げています。お振込み先は、お振込み先は必ずお振込み先と一致するようにしてください。お振込み先は必ずお振込み先と一致するようにしてください。お振込み先は必ずお振込み先と一致するようにしてください。

詳しい内容は、gooddoのホームページでご確認ください。
*お振込み先は「再育わーど」のページに、お振込み先は必ずお振込み先と一致するようにしてください。お振込み先は必ずお振込み先と一致するようにしてください。お振込み先は必ずお振込み先と一致するようにしてください。

支援する

イベント参加者の声の追加

「りょういく」イベント参加者の声

これまで、障害者と関わる時は、「手を繋いであげよう」というから意識だった自分に気づかされました。イベント中はあっという間に時間が過ぎてしまったので、また参加したいです。
24歳/男性

今年「障害者と関わる」ということで参加させていただきました。自分自身も障害者であることに、人として行動する責任があると感じました。イベントに参加した経験が今後の人生で「誰かを守りたい」ということ、今後の子育ての動機にもなりました。
34歳/男性

施設で働いているというだけで、障害者に対する偏見や差別はまだまだあります。また機会があれば参加したいと思います。
大学卒業後就職4年/男性

寄付に関するお問い合わせ

ご支援のお願い > 決済完了(今回限りのご支援)

- [🏠 ホーム](#)
- [➤ りょういくについて](#)
- [➤ レポート](#)
- [➤ 参加する](#)
- [➤ 療育施設とともに](#)
- [➤ ご支援のお願い](#)
- [➤ お問い合わせ](#)

🏠 > ご支援のお願い > 今回限りのご支援 完了

オンライン決済による今回限りのご支援

決済完了しました。
今回は、ご支援いただきありがとうございます。

- ・決済完了後、自動返信メールがご登録メールアドレス宛に送信されますので、ご確認ください。
- ・自動返信メール内には、クレジットカード決済による決済金額やお問合せ先などの情報が記載されておりますので、大切に保管してください。
- ・自動返信メールが配信されない場合は、恐れ入りますが、[お問い合わせフォーム](#)よりその旨をお問い合わせください。
- ・ご登録いただいたメールアドレス宛に@alij.ne.jpからのメールが受信できるよう、ご設定をお願いします。

[▶ TOPに戻る](#)

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

りょういくについて	レポート	ご支援のお願い
代表紹介	参加する	サポーター
運営団体概要	施設紹介	よくある質問
ヒストリー		お知らせ

🔍

ご支援のお願い > 決済完了(継続的なご支援)

- [🏠 ホーム](#)
- [➤ りょういくについて](#)
- [➤ レポート](#)
- [➤ 参加する](#)
- [➤ 療育施設とともに](#)
- [➤ ご支援のお願い](#)
- [➤ お問い合わせ](#)

🏠 > ご支援のお願い > 継続的なご支援 完了

オンライン決済による継続的なご支援

決済完了しました。
継続的なご支援いただきありがとうございます。

- ・決済完了後、自動返信メールがご登録メールアドレス宛に送信されますので、ご確認ください。
- ・自動返信メール内には、クレジットカード決済による決済金額やお問合せ先などの情報が記載されておりますので、大切に保管してください。
- ・自動返信メールが配信されない場合は、恐れ入りますが、[お問い合わせフォーム](#)よりその旨をお問い合わせください。
- ・ご登録いただいたメールアドレス宛に@alij.ne.jpからのメールが受信できるよう、ご設定をお願いします。

[▶ TOPに戻る](#)

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

<ul style="list-style-type: none"> りょういくについて 代表紹介 運営団体概要 ヒストリー 	<ul style="list-style-type: none"> レポート 参加する 施設紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ご支援のお願い サポーター よくある質問 お知らせ
--	--	--

🔍

支援のお願い > クレジットカードのご利用について

- 🏠 ホーム
- 📄 りょういくについて
- 📄 レポート
- 📄 参加する
- 📄 療育施設とともに
- 📄 ご支援のお願い
- 📄 お問い合わせ

🏠 > ご支援のお願い > クレジットカードのご利用について

クレジットカードのご利用について

ご利用可能なクレジットカード

ご利用いただけるクレジットカードは、VISA、Master Cardです。提携カードではお取扱いできない場合がありますので、ご了承ください。

決済について

お申し込みいただきました金額は、カード会社の規約に基づいて、ご指定の口座より振替させていただきます。

お振替日はお申込日の翌月となりますが各クレジット会社からのご利用明細などでご確認ください。

個人情報のお取り扱い

ご入力された個人情報は、承認なしに第三者へ開示されることはありません。

個人情報の利用目的については、[プライバシーポリシー](#)をご確認ください。

各種変更・停止の手続き

各種変更・停止の手続きをされたい場合は、こちらより手続きを行って下さい。

変更や停止には、申込時に発行されたID・PW（パスワード）が必要となります。登録した際のクレジット決済代行会社（アナザーレーン株式会社）からの返信メールに記載されています。

- > [クレジットカード情報の変更](#)
- > [停止手続き](#)
- > [パスワードの再発行](#)

お問い合わせ

お申し込み後、ご入力いただいたメールアドレスへ確認メールをお送りします。メールが届かない場合は、メールアドレスの入カミスか、携帯電話の受信設定による可能性がございますので、[こちら](#)からご連絡ください。

送信後にお申し込み内容のご案内や取り消しがある場合にも、[こちら](#)からお問い合わせください。

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

支援のお願い > サポーター



ホーム

ご支援のお願い > サポーター

りょういくについて

代表紹介

運営団体概要

ヒストリー

レポート

参加する

療育施設とともに

ご支援のお願い

お問い合わせ

両育わーるど facebook

NPO法人 両育わーるど代表
重光 喬之のブログ



サポーター



RBC Capital Markets 様

RBCのCSRに関する詳細（英語）では、「子供達は我々の未来であり、子供達の潜在能力を信じ、子供達の健全な精神と肉体を育てることが大切」の理念のもとに様々な形で社会貢献活動を行っていらっしゃいます。知的・発達障害児と関わる人がともに学び合う、「両育」のある社会を目指す活動に賛同頂き寄付金を頂きました。(25、26年度)



tsukuruba inc. 様

「両育」という新しい定義で、福祉現場との繋がりを作るために奔走していた当初から、ツクルバが運営するシェアードワークプレイス「co-ba shibuya」を拠点に活動して頂いています。ここで出会い、想いに共感したデザイナー、ディレクター、エンジニア、コピーライターが集り、実際に「りょういく」という新たなサイトが誕生しました。これまで閉鎖的だった福祉の現場に、クリエイティブな発想を呼び込む社会貢献活動を応援しています。詳細はこちら（27年度）

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業



りょういくについて
代表紹介
運営団体概要
ヒストリー

レポート
参加する
施設紹介

ご支援のお願い
サポーター
よくある質問
お知らせ

代表 重光のブログ

NPO法人 両育わーど代表 重光 喬之のブログ

TAKAYUKI SHIGEMITSU BLOG

知的・発達障害児と関わる人がともに学び合う、「両育」のある社会へ。

[ホーム](#) [自己紹介](#) [法人概要](#) [お問合せ](#)



Search...

新着記事

[放課後等デイサービス施設地縄立会【支援事業編】](#)

[日頃、こんな仕事もしています。【支援事業編】](#)

[法人を立ち上げ3年目を迎えました。](#)

[BLOGをはじめることになりました。](#)

記事一覧



放課後等デイサービス施設地縄立会【支援事業編】

2015年2月5日: [活動紹介](#)

先日、業務委託でお付き合いのある施設にて地縄立会がありました。今回で施設建設のお手伝いは二件目となります。滞り [...]



日頃、こんな仕事もしています。【支援事業編】

2014年11月25日: [活動紹介](#)

私たち両育わーどには、大きく分けて3つの事業があります。・前回取り上げた「りょういく」サイトを中心とした交 [...]



法人を立ち上げ3年目を迎えました。

2014年11月12日: [活動紹介](#)

本日、法人を立ち上げちょうど3年目を迎えました。皆様のお蔭で今日の日を迎えられたことに感謝しています。同時 [...]



BLOGをはじめることになりました。

2014年11月7日: [重光の独り言](#)

これから増えていくであろう読者の皆さまこんにちは！両育わーど代表の重光喬之です。日々の活動をより多くの方 [...]

アーカイブ

[2015年2月](#)

[2014年11月](#)

カテゴリー

[活動紹介](#)

[重光の独り言](#)

ツイッター (@ryoikuworld)

grow together

両育わーど

ツイート 16 | フォロー 5 | フォロワー 19 | お気に入り 1

NPO法人両育わーど @ryoikuworld

児童福祉法に基づく放課後等デイサービス提供施設を中心に知的・発達障害児の育成支援と社会の向上を目的として活動しています。

東京都
ryoiku.org

ツイート

ツイート ツイートと返信 画像/動画

NPO法人両育わーど @ryoikuworld · 2月24日
障害に関わらず、誰もが困難を乗り越えた後、人間としての誇りを持って。-りょういく (両育) | NPO法人両育わーど
ryoiku.org/report/offer1/

NPO法人両育わーど @ryoikuworld · 11月26日
【メディア掲載】「りょういく」サイトについて取り上げて貰いました。
ボランティアのリアルな声が福祉の世界を近づける。WEBサイト「りょういく」のさらす価値。plus-handicap.com/2014/11/4414/
@plushandicapさんから

NPO法人両育わーど @ryoikuworld · 11月6日
知的・発達障害児の現場でボランティアを続ける理由とは？
療育ボランティアは、ライフワークりょういく (両育) | NPO法人両育わーど
ryoiku.org/report/fumi13/

NPO法人両育わーど @ryoikuworld · 10月26日
【りょういくレポート】更新しました。ボランティア、アルバイト、そして職員へと関わって行く中での気持ちの変化とは。
子供たちの将来のため、時には厳しく叱ることのできる支援者になりたいりょういく (両育) | NPO法人両育わーど
ryoiku.org/report/fumi12/

Twitterからのおすすめ

Amazon.co.jp (アマゾン) @AmazonJP · 4月1日
★**無料登録で全員にプレゼント**★
⇒ amzn.to/19na7HR
高評価レビュー多数の粉ミルクで使えるクーポンが必ずもらえます ※なくなり次第終了
お試し後は3,900円クーポンもプレゼント

amazonファミリー

NPO法人両育わーど @ryoikuworld · 9月20日
【りょういくレポート更新】
今回は陶芸の先生ヘインタビューしました。
親や職員さん以外の大人がやって来る。それだけで充分ボランティアになると思います-りょういく (両育) | NPO法人両育わーど
ryoiku.org/report/report1...

NPO法人両育わーど @ryoikuworld · 9月17日
客先にて、久々に子どもと遊ぶ時間が作れた。当たり前のことだけど障害の有無に関わらず子どもからは元気を貰えるなと改めて実感した。
これはなぜなのだろうか。
考え出すときりがない。
by シゲ

NPO法人両育わーど @ryoikuworld · 8月18日
職業体験で中学生 2人が気づいたコミュニケーションの大切さ-りょういく (両育) | NPO法人両育わーど
ryoiku.org/report/report1...

NPO法人両育わーど @ryoikuworld · 8月8日
【いいね！で気軽にご支援いただけます】
gooddoのページでサポーター企業のfacebookにいいね！するだけで、10円が両育わーどに届けられます。ぜひよろしくお願ひします！
gooddo.jp/gd/group/ryoik...

NPO法人両育わーど @ryoikuworld · 7月31日
本日は『両育わーど』に50ポイント届けました！次のゴールまで残りあと2130ポイント。～NPO/NGOを誰でも簡単に無料で支援できる！gooddo(グッドゥ)～
gooddo.jp/gd/group/ryoik...

NPO法人両育わーど @ryoikuworld · 7月28日
私たち両育わーど代表インタビュー記事第二弾です。
ryoiku.org/report/report1...

NPO法人両育わーど @ryoikuworld · 7月21日
【いいね！で気軽にご支援いただけます】 gooddoのページでサポーター企業のfacebookにいいね！するだけで、10円が両育わーどに届けられます。ぜひよろしくお願ひします！
gooddo.jp/gd/group/ryoik...

Facebook

f 両育わーど
Hiroshi Home 5

両育わーど
Region · Social Services · Disabled Persons Services

Liked Following Message

Create Page

Recent

2015

2014

2013

2012

Founded

PEOPLE

★★★★★

427 likes
1 visit

直樹吉岡, Takayuki Shigemitsu and 27 others like this.

Invite your friends to like 両育わーど

くさか きゅうはち Invite

Taro Tokuhiro Invite

Towako Sakai Invite

See All Friends

ABOUT

① 廣布市内の児童福祉法に基づく放課後等デイサービス提供施設を中心に知的・発達障害児の育成機会と環境の向上、福祉現場と社会の橋渡しを目的とする。

② <http://www.ryoku.org/>

Suggest Edits

PHOTOS

NOTES

療育から両育を広げて
January 2, 2012

両育わーど
April 4 at 7:47pm · 公

【当団体へのドネーション】

私たち両育わーどの一事業である知的・発達障害児と社会を繋ぐ「りょういく」サイト、一様にサイトを立ち上げた仲間たちと出会ったコワーキングスペース-co-ba shibuya (tsukuruba inc.) 様より一年間のご支援を頂くことになりました。

<http://tsukuruba.com/co-ba/blog/167.html>... See More

Like · Comment · Share

直樹吉岡 and 13 others like this.

1 share

Write a comment...

両育わーど
April 4 at 11:28am · 公

【NPO支援のgooddo】

「知的・発達障害児と関わる人とともに学び合える『両育』のある社会を目指す」私たちの活動にご賛同頂きましたらぜひともシェア宜しくお願いします。

..... See More

Like · Comment · Share

39

今回の成果(1. パンフレット・ステッカー)

以下の配布先にパンフレットを置いた。興味・関心を持つ人が増え、福祉施設へボランティアをより多く集めることができる見込みがある。

※ まだ配布したばかりなので、正確な効果は今後計測していく。

パンフレット配布先一覧(印刷数2000部)

1. 行政関連

- 調布市障害福祉課 50部
- 調布市役所 市民プラザあくろす 50部
- 東京ボランティア・市民活動センター 50部

2. 福祉関連

- 調布市社会福祉協議会 50部
- 調布市社会福祉協議会放課後等
デイサービスびっころ 25部
- 社会福祉法人調布市社会福祉事業団
ちょうふだぞう 25部
- NPO法人ふみ月の会 25部
- 一般社団法人ハッピーチョイス 100部

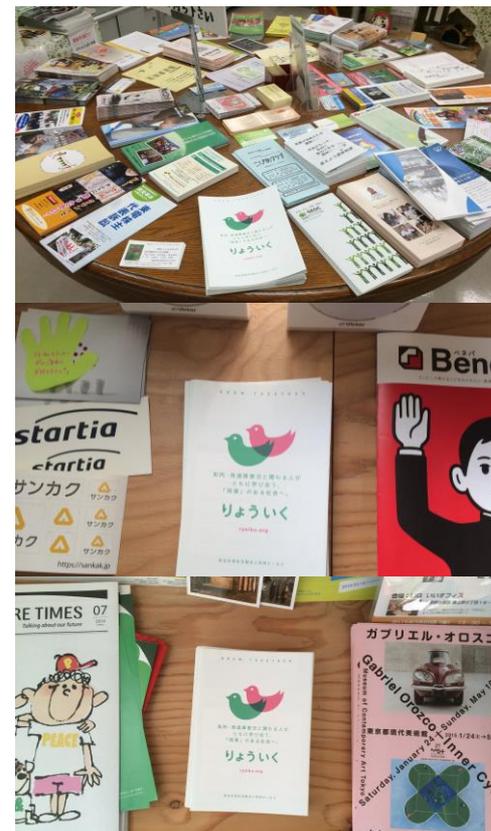
3. その他

- NPO法人一新塾 25部
- NPO法人未来をつかむスタディーズ 100部
- co-ba shibuya 100部
- co-ba library 100部
- co-ba akasaka 50部
- co-ba choufu 500部
- 調布アットホーム(調布市内任意団体) 100部
- 一般社団法人みんなの森財団 100部
- 一般社団法人プラス・ハンディキャップ 100部
- RBC Capitla Markets Japan 25部
- 株式会社 調布不動産 25部
- WIREDCAFE(渋谷店) 10部
- その他一般・関係者配布 370部

4. 残り30部(成果物報告用含)

ステッカー配布先一覧(印刷数300枚)

- 1. 一般・関係者配布280枚
- 2. 残り20枚(成果物報告用含)



今回の成果(2. ボランティア体験記事)

掲載記事8件に対して、ボランティアに17人が参加した。

また記事のページビューは全ページビュー数32.87%に及んだ。



今回の成果

(3. Webサイト更新・運用、福祉施設とボランティアの調整)

以下の施策により、認知向上と福祉活動への参加を促した。

※ まだ更新・運用を始めたばかりなので、正確な効果は今後計測していく。

•施設紹介・求人情報を追加して、記事からの誘導を高めた。

- 閲覧者:348PV、平均滞在時間3:20、FBいいね！124件、ツイート4件を獲得した。
- googleAdwords利用して、表示回数9074回、クリック数34回を獲得した。

•ソーシャルメディアからの流入が多いため、FacebookページとTwitterアカウントを作成して、運用を開始した。

•寄付手段の追加して、支援のしやすさを向上させた。

- オンライン決済(今回限り／継続的)
- ソフトバンクの「かざして募金」
- 「gooddo(グッドウ)」(サポーター企業の広告協賛費によって運営・支援金の支払いを行う、寄付金の負担がない支援)
- 「イベント参加者の声」を追加し、支援の成果を伝えた。

今後も長期的に望める効果

- Webサイト『りょういく』の認知度が向上し、ボランティアを経験した福祉系学生の就職におけるマッチングが改善する。また先輩学生の口コミなどにより、継続的にボランティア体験から就職へすすむ流れが作られることが期待できる。
- 様々な立場や背景を持つ人々の体験記事を通じて、障害への理解が社会へ広がる。
- これまで障害福祉に関心のなかった人々が、福祉現場の魅力に気づくことが期待できる。
- 知的・発達障害児と関わることで、関わり手側も学ぶという体験により、障害の有無に関わらず人と人は誰しもが学び合えるという認識が社会に広まる。
(応募団体の理念である「両育」の概念)

まとめ

元々の「りょういく」Webサイトの目的は、ボランティア活動への応募を支援することであり、そのための施策を打っていたが、実情としては、施設側での受け入れが難しかった。

この教訓を活かし、今回の事業では、もっと福祉現場を理解してもらうことを目指して、そのためにレポート記事を多く作成した。

また施設紹介・求人情報の記事を作成することで、その実情を伝えつつ、ボランティアの受け入れ態勢や採用窓口の拡大の支援をした。

今後の展開

今回、ボランティア体験レポートの充実化と同時に新たに施設紹介・求人情報記事の掲載を始めた。施設紹介のニーズが見込めたため、こちらも充実化を図る。

次のステップとして、福祉現場と民間企業で連携し、社員研修としてボランティア活動に参加できるよう仕組み作りを行う。これにより福祉現場ではヒト、カネ、モノが豊かになり、情報発信・収集のノウハウが集まることで、子供たちの育成環境の向上を見込む。民間企業においては、社員のコミュニケーションスキルの向上や、多様性を受け入れる思考が育成できる。あわせて福祉現場の外の人々が交流することで障害理解も広がっていくと考えている。

これが両育わーどが考える「両育」の実践である。